トップメッセージ

確かな“きずな”を、未来へ。

取締役頭取
熊谷俊行

はじめに

平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、令和元年台風15号・19号および21号に伴う記録的な大雨により被害に遭われた皆さまに心からお見舞い申し上げます。

このたび、「2019京葉銀行中間レポート」を作成いたしましたので、ご案内を申し上げます。ご高覧のうえ当行に対するご理解を深めていただければ幸いに存じます。

日本経済は、雇用・所得環境の改善が続き緩やかな回復基調となりましたが、米中貿易摩擦などの影響により、輸出面には弱さもみられました。当行の経営基盤である千葉県経済は、9月以降に発生した台風の被害により、生産・消費の一部に影響が生じたものの、企業倒産件数は低い水準で抑えられており、雇用情勢や個人消費も堅調に推移するなど、緩やかな回復基調が続きました。一方、低金利の継続や異業種の参入など、金融機関を取り巻く環境は引き続き厳しいものとなりました。また、人口減少、少子高齢化の進展、デジタル技術の高度化など社会構造は大きく変化しております。

このような環境下、当行は、第18次中期経営計画「α ACTION PLAN 2021」を推進しており、本年度は3か年計画の中間年度となります。基本方針に「お客さま・従業員の満足度№1の銀行」を掲げ、4つの基本戦略を着実に実行することで、経営環境の変化にも揺るがない、持続可能なビジネスモデルの構築を実現してまいります。

中期経営計画中間年度の取り組み

地域金融機関は、地域活性化に向けた各種施策を積極的に推進していくことが求められています。

当行では、円滑な事業承継の実現のため、次世代の経営者を育成する「アルファバンクの後継者塾」の開講やM&Aなど中小企業の成長・発展をサポートする体制を強化しています。また、各自治体や外部機関、他企業との連携により、ICTやSNSを活用した地方創生にも力を入れております。例えば、香取市では、歴史的資源の活用による観光振興を目指し、古民家宿泊施設の開業支援のほか、地元事業者と協働による情報発信などの取り組みを継続的に行っています。いすみ市では、官民一体となって農業や漁業、観光などの分野における事業活動を支援しております。

また、人財の活用においては、お客さまへ「プラスアルファ」の付加価値を提供できるよう、全従業員が活躍するプロフェッショナル集団への変革を掲げております。女性行員のキャリア開発支援や70歳までの継続雇用制度の導入など性別・年齢に関係なく、多様な「人財」が活躍できる環境整備に努めています。また、お客さまのニーズに応じて、“いつでも、どこでも、便利で安心、快適”な金融サービスをご利用いただけるオムニチャネルを推進しております。非対面チャネルは、Web完結のローン商品を拡充するなどデジタル技術を活用したサービスを充実させる一方、対面チャネルでは、本年9月のSBIマネープラザとの共同店舗の開設や10月の鎌ヶ谷支店の新築移転など、お客さまにとって充分なコンサルティングを実感いただける店舗づくりを実現しております。これからもお客さまに寄り添った営業の実践に励んでまいります。

結びに

こうした取り組みに加えて、「環境・社会・ガバナンス」(ESG)の充実と、国連が提唱する「持続可能な開発目標」(SDGs)を意識した経営を行うことで、全てのステークホルダーの皆さまのご期待にお応えできるよう、京葉銀行グループ役職員一同全力を尽くしてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

第18次中期経営計画					
α ACTION PLAN 2021　「さらなる飛躍」					
基本方針(スローガン)「お客さま・従業員の満足度No.1の銀行」					
計画期間	2018年4月～2021年3月(3年間)				
基本戦略	1. お客さまに寄り添った営業の実践				
	2. オムニチャネルの構築				
	3. 全従業員が活躍するプロフェッショナル集団への変革				
	4. ローコストオペレーションと利益拡大				
計数目標	当期純利益 150億円	役務取引等収益 150億円	OHR 60%程度	預金残高 5兆円	貸出金残高 4兆円